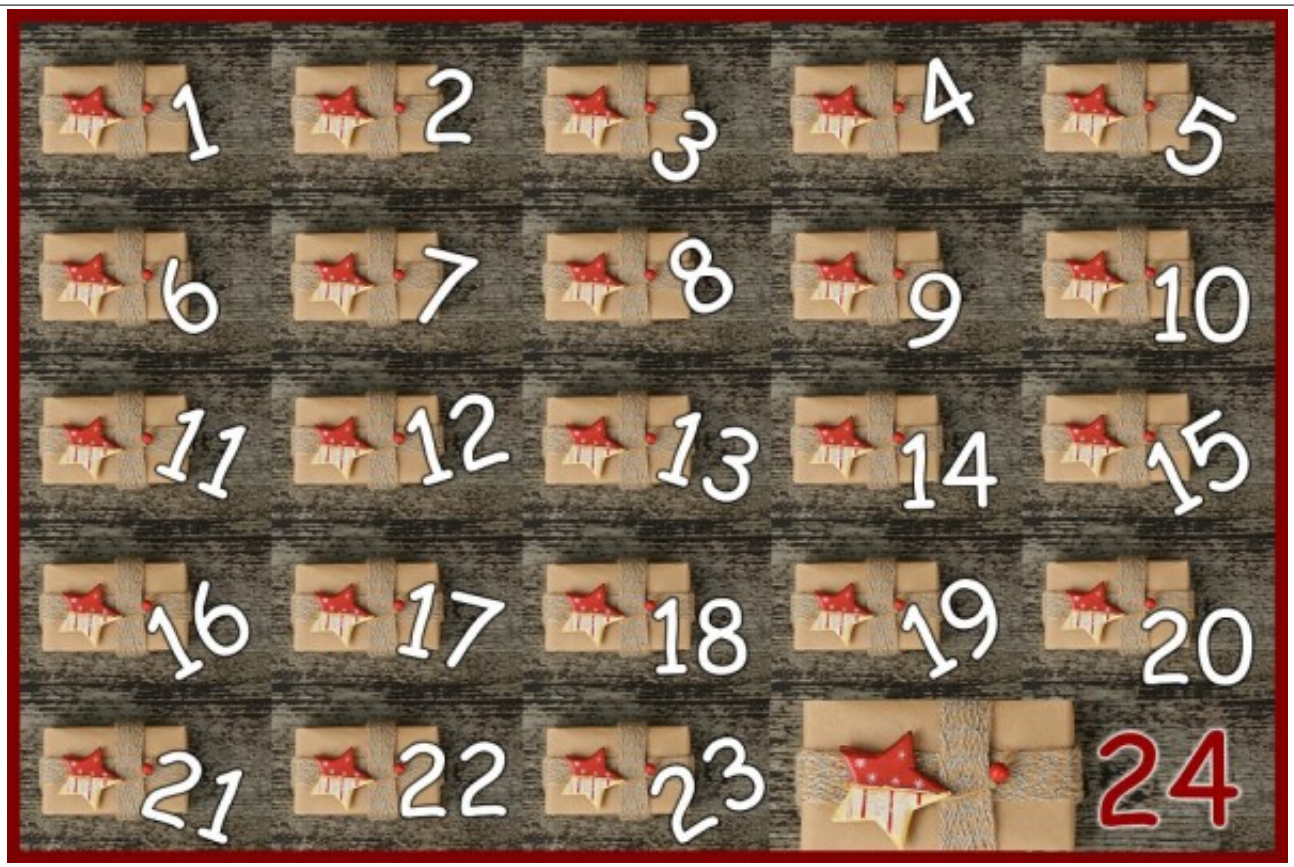
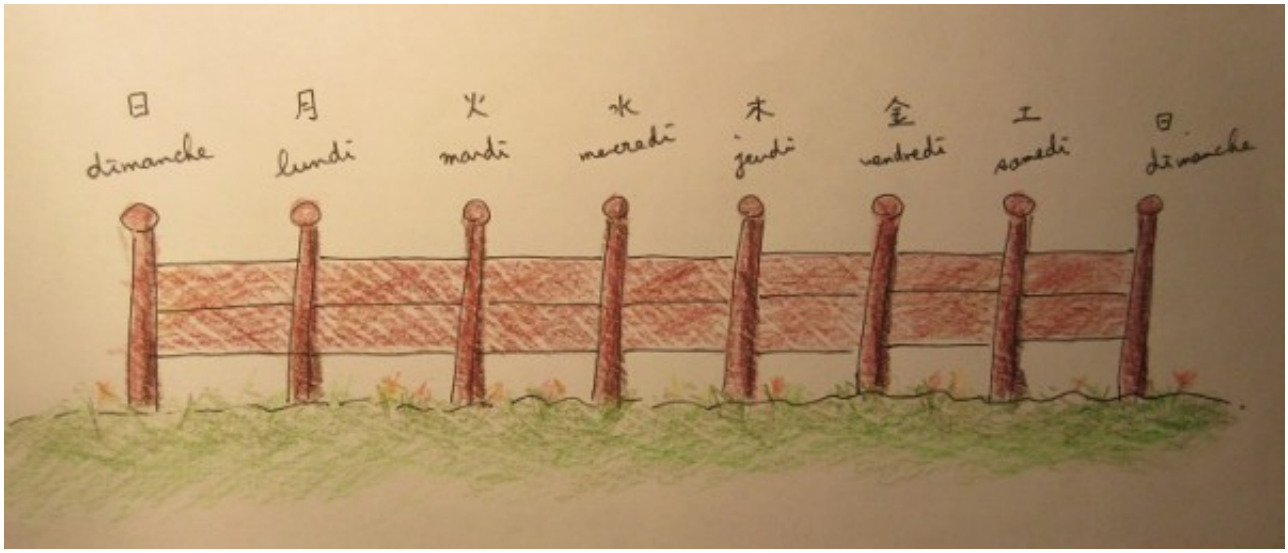
フランスと日本で異なる数字の数え方！1週間は8日？



「所変われば
品変わる」とはよく言った
もので、フランスに来た方、誰もが最初に日数の数え方
に戸惑った経験があるのではないでしょう
か。今回はフランスの数字の数え方や計算の仕方についてお話しします。

フランスの１週間は８日？



物の考え方やら捉え方、よくもこんなにヴァリエーションがあるものだというくらい、土地によって異なるものです。フランスでよく聞く表現**「dans huit jours（8日後）」**は、**フランスでは１週間後を指すのです**。

上の画像をご覧ください。柵に必要な材料を数える時、杭の数を数えるわけです。今日が日曜なら、
私にとっては来週の日曜は、「板の数＝7日後」なのですが、フランス人にとっては、「杭の数＝8日後」となるわけです。同じ原理で、「2週間後＝dans 15 jours（15日後）」とも言うことができます。

学校の休暇通知も、発想が異なります。例えば、2015年のクリスマス休暇について。私の感覚では、12月20日（土）から1月4日（日）までがお休みだと思ったのですが、こちらでは・・・

Du vendredi 19 décembre après la classe au mercredi 5 janvier 2015 au matin
（12月19日金曜日授業後より、1月5日月曜朝まで）と、通知されるのです。

フランスと日本 異なる数字の論理

この辺も、杭を数える感覚なのかしら、と思ったりしますが、なかなか慣れることができません。でも考えてみれば、もともと**数字の数え方、計算の仕方**からして日本とは異なる論理で学んできている国なのですから、これぐらいの違いは当然なのかもしれません。

例を１つ挙げてみます。小学校で習う割り算。144÷12の場合。**英国風**
だと計算式は上のようになります。日本のやり方に似ていますね。ところが・・・

フランス式
では上のように計算するのです。正直言って、どこがどうなっているのか、分かったようでよく分かりません。

順応力が養われる利点もある！

計算の仕方の違いは、大人にとっては笑い話で
も**子供にとっては死活問題**
。国を変わったり、システムの違う学校に変わることは、言語の問題だけでなく、もっと広い場面での順応力を要求されることでもあるんですね。

けれども、「所変わ
れば品変わる」のが当然と思って対処す
れば、驚くほど
共通点が多いことに感動するのもまた事実
。要はどこに視点を置くかの問題だと気付いてしまえば、案外どこも「住めば都」なのかもしれません。

執筆：ゆき

オンラインフランス語学校

ENSEMBLE EN FRANÇAIS

アンサンブルアンフランセ

オンラインフランス語学校アンサンブルアンフランセは、プロの講師による
マンツーマンのスカイプレッスンが1回1500円～受講できます。
いつでもどこでも手軽に受講できる利便性と生徒一人一人にカスタマイズされた
質の高いレッスンが好評です。